

中医協 診 - 3

19. 7. 11

診調組 D -- 2

19. 6. 22

## 再入院に係る調査について

### 1. 調査の目的

- 医療効率化の一つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られているなかで、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院の頻度やその理由を指標として検証する。

### 2. 班構成

- ◎松田 晋哉：産業医科大学公衆衛生学教室 教授
- 西岡 清：横浜市立みなと赤十字病院 院長
- 原 正道：横浜市立大学医学部教授（病理学）
- 柿田 章：北里大学名誉教授（私立医科大学協会常勤参与）

注：◎は班長

### 3. 調査方法

#### (1) 調査方法

- 7月から12月までの退院患者に係る調査実施期間中に収集されたデータのうち7月から10月の退院患者データにより①データ識別IDの重複があれば再入院と判定(ただし、前回入院から6週間以内に再入院があった場合に限る。)、②医療資源を最も投入した傷病名のICD-10が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再入院率を調査。
- 再入院ありと判定された患者について「再入院調査票」により再入院の状況を調査。
- 本年度においては、平成18年の1年分の再入院症例について調査を実施し、昨年実施した4年間のデータと共に、平成14年から18年の5年間の変化を把握することを目的とした。(今年度調査対象となった症例は約177,000件。)

#### (2) 調査対象病院

- DPC対象病院・DPC準備病院の全731病院

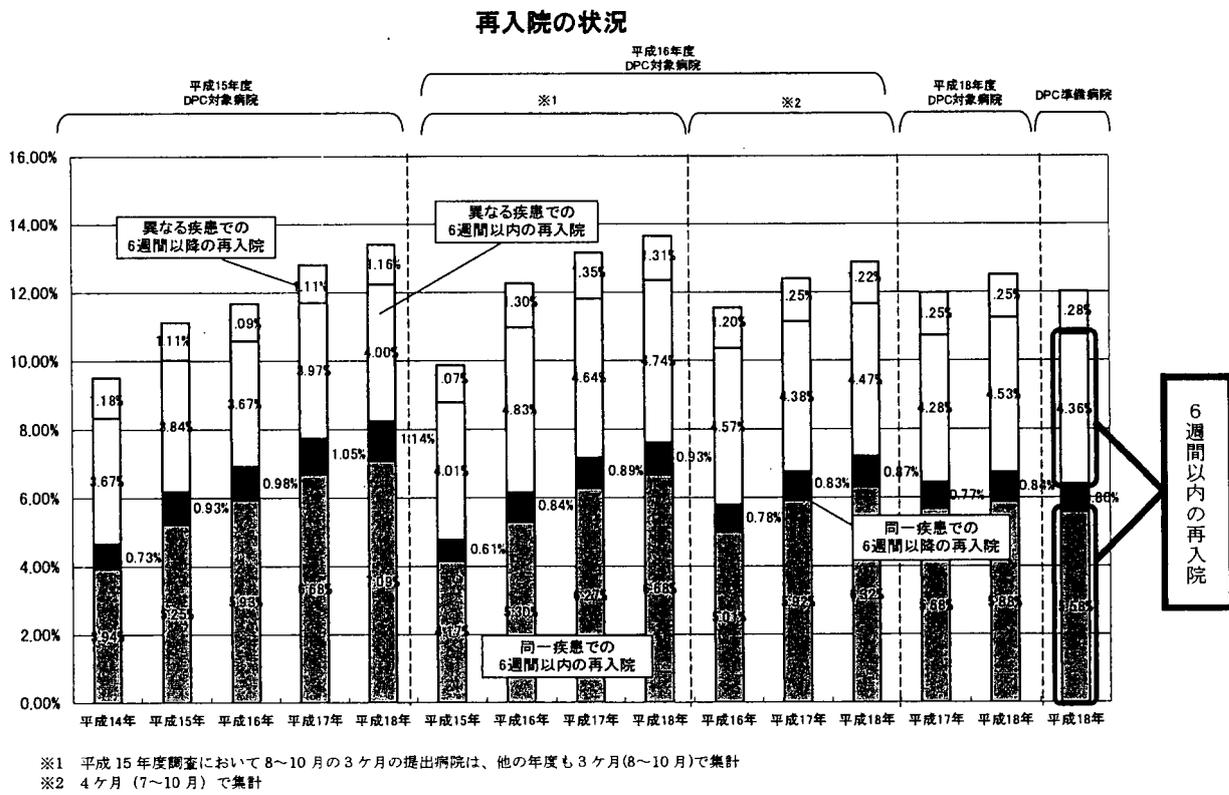
#### (3) 調査票

- 症例毎に基本情報を記載した調査票(別紙1)とデータ入力用のエクセルシート(別紙2)を送付して、調査の負荷軽減を図るとともに提出データ形式の統一を図った。

### 4. 調査の実施状況

- 平成18年 12月 27日 調査票の発送
- 平成19年 1月 31日 データ提出期限
- 平成19年 2月～3月 エラーチェック・データ集計等

(参考) 下図のとおり、再入院率の変化は、主として6週間以内の再入院において起こっていることから、本調査においては、6週間以内の再入院に限って理由を把握。



## 5. 調査結果要約

### (1) 今年度の調査対象医療機関数及びデータ数の年次推移

平成18年度の調査対象病院は731医療機関であり、全医療機関から回答が得られた。その中で施設類型別の集計では全ての年度で4ヶ月間のデータが揃っている705病院を今年度の分析対象とした。

全分析対象症例1,705,630症例のうち再入院症例数は177,627症例(再入院率10.4%)であった。そのうち回答症例数は177,552症例(回答率99.96%)であった。

### (2) 施設類型別集計

#### ①年度別・再入院率

DPCによる支払いを受けているかどうかに関わらず、経年比較が行える施設類型において再入院率は年々増加傾向にあり、平成18年度は前年度と比較して0.1～0.7%増加していた。

#### ②前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率・割合

病名の同異及びその理由について再入院比率を年度別にみると、平

成15年度 DPC 対象病院と平成16年度 DPC 対象病院は前回入院と同一病名の場合の計画的再入院の比率が年度ごとに増加し、これが全体の再入院率を高めていた。平成16年度 DPC 対象病院は、平成18年度の予期せぬ再入院率が減少していた。平成18年度 DPC 対象病院は前年度と比較して顕著な変化は見られなかった。

病名の同異及びその理由について、全体の再入院を100とした場合の構成割合を年度別にみると、平成15年度 DPC 対象病院と平成16年度 DPC 対象病院において、同一病名による計画された再入院の割合の増加が見られるが、平成18年度 DPC 対象病院は同一病名による計画された再入院の症例数は増えているものの、全体の割合は僅かではあるが減少していることがわかった。

③計画的再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）

計画的再入院症例における再入院理由を年度別にみると、平成15年度 DPC 対象病院と平成16年度 DPC 対象病院において、「化学療法・放射線療法のため」が大きく増加していた。また、「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」も増加していた。他の理由については大きな変化は認められなかった。平成18年度 DPC 対象病院は「化学療法・放射線療法のため」が減少しており、「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」は増加していた。

④ 予期された再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）

予期された再入院における再入院理由を、施設類型別・年度別にみると、平成15年度 DPC 対象病院と平成18年度 DPC 対象病院において、平成17年度から18年度にかけて「予期された疾病の悪化、再発のため」及び「予期された合併症発症のため」の比率が減少していた。平成16年度 DPC 対象病院は「予期された疾病の悪化、再発のため」は微増していた。

⑤ 予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）

予期せぬ再入院における再入院理由を、施設類型別・年度別にみると、平成17年度から18年度にかけて、平成15年度 DPC 対象病院と平成18年度 DPC 対象病院において「予期せぬ疾患の悪化、再発のため」と「他疾患発症のため」において増加がみられた。平成16年度 DPC 対象病院は、「予期せぬ合併症発症のため」、「他疾患発症のため」で減少していた。

⑥ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例のMDC別・退院症例に対する再入院比率・割合  
平成15年度 DPC 対象病院と平成16年度 DPC 対象病院において、計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」

め」に該当した症例比率および実数が増加していたが、特に、医療資源を最も投入した傷病名が MDC 04 (呼吸器系疾患)、MDC 06 (消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患) に該当する場合においてその傾向があった。平成 15 年度 DPC 対象病院においては MDC12 (女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩) も増加傾向があった。

割合で見ると、化学療法・放射線療法のための計画的再入院のうち、医療資源を最も投入した傷病名が MDC 06 (消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患) に該当する場合の割合増加が、平成 16 年度 DPC 対象病院と平成 18 年度 DPC 対象病院において大きかった。

- ⑦ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別 (上位 15 疾患)・退院症例に対する再入院比率・割合

各施設類型で見た場合、全ての DPC 対象病院において、「化学療法・放射線療法のため」の計画的再入院で増加傾向にあるのは、肺の悪性腫瘍、大腸の悪性腫瘍、直腸肛門の悪性腫瘍などであった。割合で見た場合、卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍は全ての DPC 対象病院において減少傾向があった。

- ⑧ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合

各施設類型ともに、MDC 別にみると医療資源を最も投入した傷病名が MDC 05 (循環器系疾患)、MDC 06 (消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患)、MDC 07 (筋骨格系疾患) に該当する場合において増加傾向があった。

- ⑨ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別 (上位 15 疾患)・退院症例に対する再入院比率・割合

全ての DPC 対象病院において、「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の計画的再入院の再入院率が増加傾向にあるのは、狭心症・慢性虚血性心疾患、脊柱管狭窄、大腸の悪性腫瘍であった。いずれも退院症例数の増加に伴って実数が増加していたが割合で見ると平成 16 年度 DPC 対象病院と平成 18 年度 DPC 対象病院における狭心症・慢性虚血性心疾患は平成 18 年度は前年度と比べ小さくなっていた。

- ⑩ 前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率・割合

各施設類型において、経年的に再入院率が増加する中、期間別にみると、平成 18 年度は 3 日以内の再入院率は全ての DPC 対象病院ともに減少している。また、4 日～7 日以内の再入院は平成 16 年度 DPC 対象病院と平成 18 年度 DPC 対象病院は減少していた。

8日以上の再入院率は全ての DPC 対象病院において増加傾向にあった。

⑪ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合

⑩を化学療法・放射線療法のための計画的再入院に絞り同様の集計を行ってみると、いずれの施設類型でも 15 日～28 日以内の再入院率がもっとも高くなっている。全ての DPC 対象病院において 8 日～28 日以内の割合は年々増加しており、7 日以内の割合は減少していた。

⑫ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合

⑩を「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の計画的再入院に絞り同様の集計を行ってみると、いずれの施設類型でも 15 日～28 日以内の再入院率がもっとも高くなっている。全ての DPC 対象病院において年度ごとの変化は特に観察されない。

⑬ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率

計画的再入院から「化学療法・放射線療法あり」を除き、②と同様の集計を行った。僅かではあるが、いずれの施設類型でも年度ごとに計画的再入院の増加傾向があった。

⑭ 同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数  
「化学療法・放射線療法あり」の症例の再入院回数と在院日数を比較してみると全ての施設類型において 1 回目に比べ 2 回目入院の在院日数は短くなり、2 回目以降の在院日数はほとんど差がないという傾向が見られた。

⑮ 1 患者あたりの再入院回数（実患者数/退院症例数）

施設類型ごとに 1 人の患者の平均再入院回数は大きな違いは見られない。平成 15 年度 DPC 対象病院と平成 16 年度 DPC 対象病院では、年度ごとに僅かな増加傾向があった。

### (3) 医療機関別集計

年度別の再入院率を医療機関別にみると、医療機関によりかなりのばらつきがあり、例えば平成 18 年度において、全ての DPC 対象病院の中で最も再入院率が高かった医療機関の再入院率が 26.4%であった一方、最も低かった医療機関では 2.3%であった。

### (4) 結論

DPC 導入以降、DPC 対象病院は再入院率が増加する傾向にある。主な原因は計画的再入院の増加にあり、特に化学療法・放射線療法の理由による再入院の増加が原因となっている状況は、昨年と同様であった。

退院後 3 日以内、及び 4 日～7 日以内の再入院は減少傾向があるが、個別の医療機関間でかなりのばらつきがあり、引き続き、経年的な動向の把握が重要であると考えられた。

また、「化学療法・放射線療法あり」を除いた計画的再入院や 1 患者あたりの再入院回数等は僅かではあるが増加傾向がみられるため、個別の医療機関ごとに調査し、ヒアリングの必要があると考えられた。

## 「再入院の理由を把握するための調査」調査票

◇ 医療機関名：  
 ◇ 患者データ識別番号： 生年月日（西暦）：  
 ◇ 診療科コード（前回退院時）：  
 診断群分類（前回退院時）：  
 最医資病名（前回退院時）：  
 入院日： ICD - 10：  
 退院日： 退院時転帰：  
 入院目的：  
 ◇ 診療科コード（今回退院時）：  
 診断群分類（今回退院時）：  
 最医資病名（今回退院時）：  
 入院日： ICD - 10：  
 退院日： 退院時転帰：  
 入院目的：

◇ 再入院の理由：  
 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。  
 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があつて再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。  
 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。

\* 計画的再入院

( ) ① 検査入院後手術のため  
 ( ) ② 計画的手術・処置のため  
 ( ) ③ 化学療法・放射線療法のため  
 ( ) ④ 定期検査のため  
 ( ) ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため  
 ( ) ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため  
 ( ) ⑦ その他 ( )

\* 予期された再入院

( ) ① 予期された疾病の悪化、再発のため  
 ( ) ② 予期された合併症発症のため  
 ( ) ③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため  
 ( ) ④ 前回入院において患者の都合により退院したため  
 ( ) ⑤ その他 ( )

\* 予期せぬ再入院

( ) ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため  
 ( ) ② 予期せぬ合併症発症のため  
 ( ) ③ 他疾患発症のため  
 ( ) ④ その他 ( )

(参考)

## 再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再入院	① 検査入院後手術のため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	⑤ 前回入院時検査・手術を中止して一時帰宅したため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したので手術（単純子宮全摘術）目的で入院。
	⑦ その他	
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため	前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	④ 前回入院において患者の都合により退院したため	大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったため退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除をうけた。
	⑤ その他	
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症の発生のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他	



## 集計結果について

- 平成 18 年度の調査対象医療機関数及び分析データ数の年次推移

## 施設類型別集計

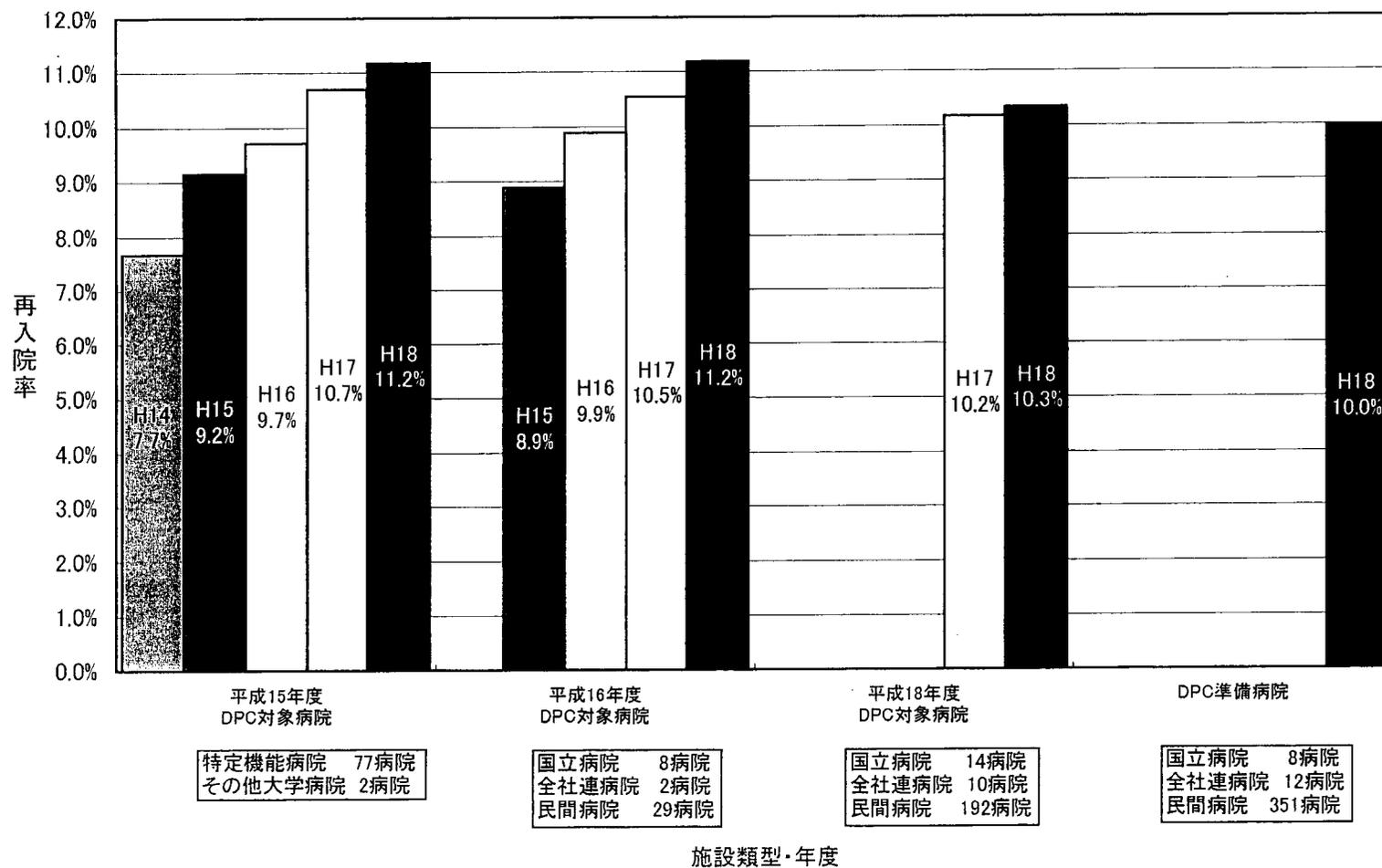
- 年度別・再入院率
- 前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率
- 前回入院と今回入院の病名同異別・再入院事由割合
- 計画的再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 予期された再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率

- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位15疾患）・再入院割合
- 前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率
- 前回再入院からの期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率
- 同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数
- 1患者あたりの再入院回数（実患者数/退院症例数）

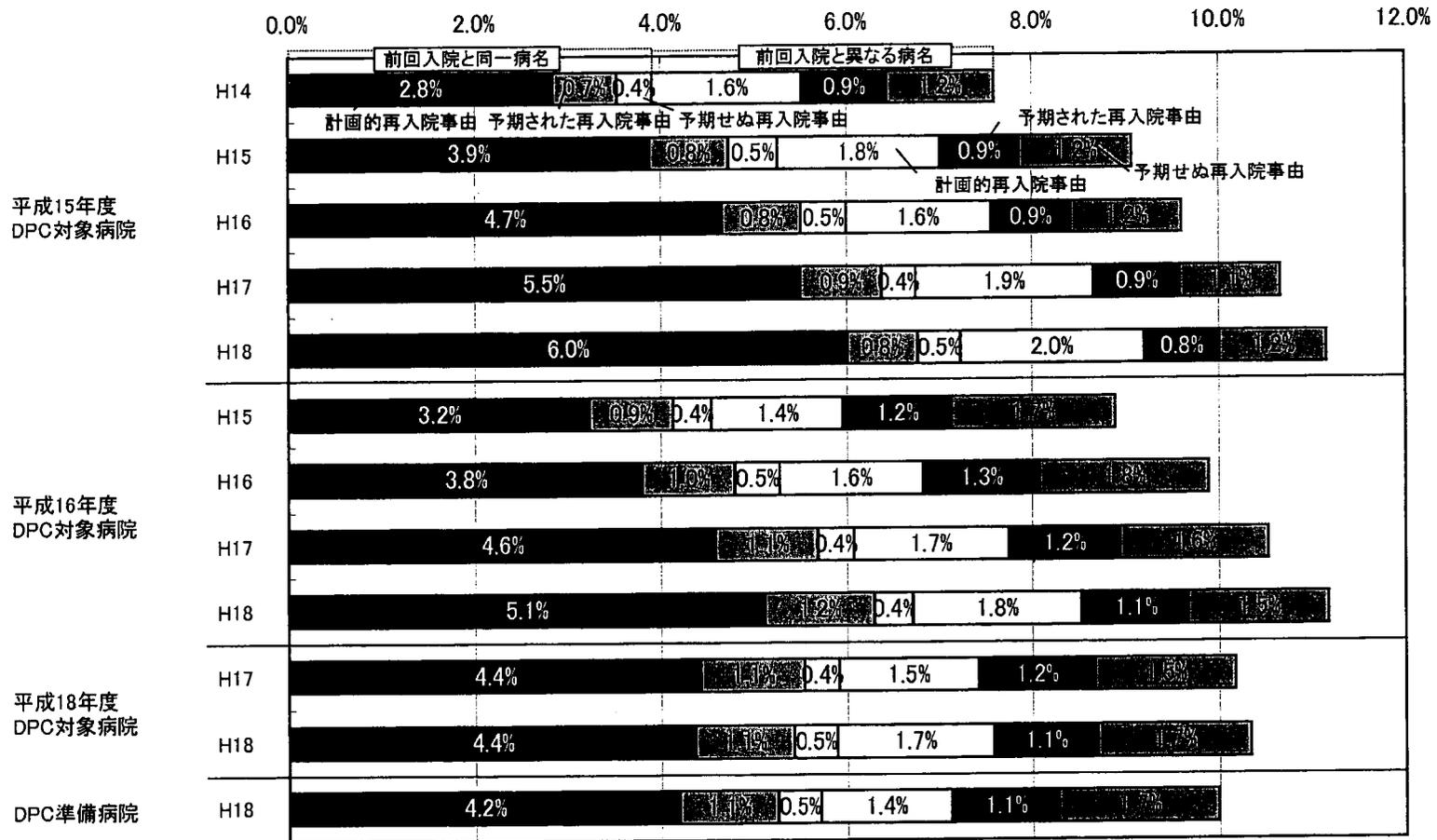
#### 医療機関別集計

- 年度別・再入院率

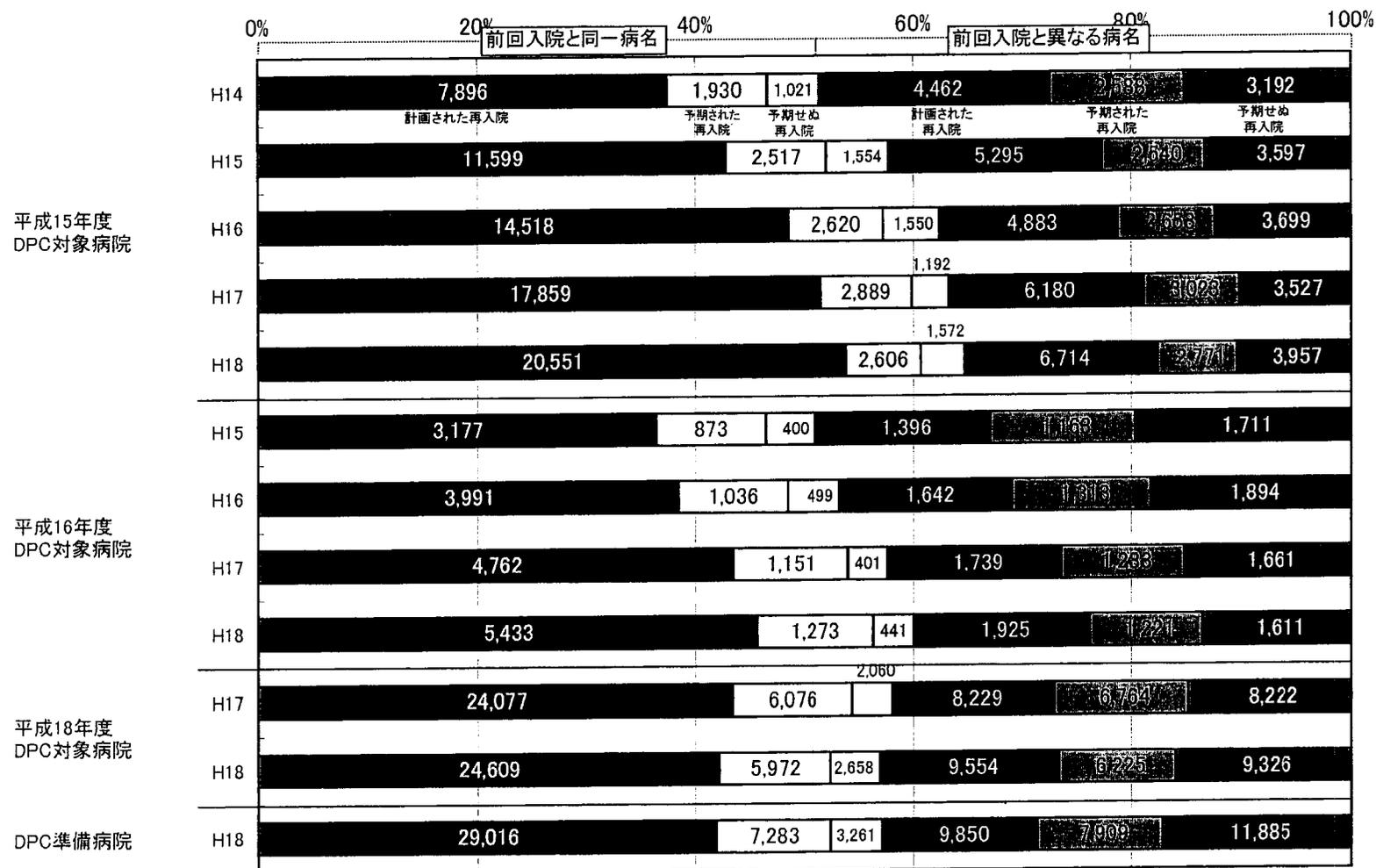
①年度別・再入院率



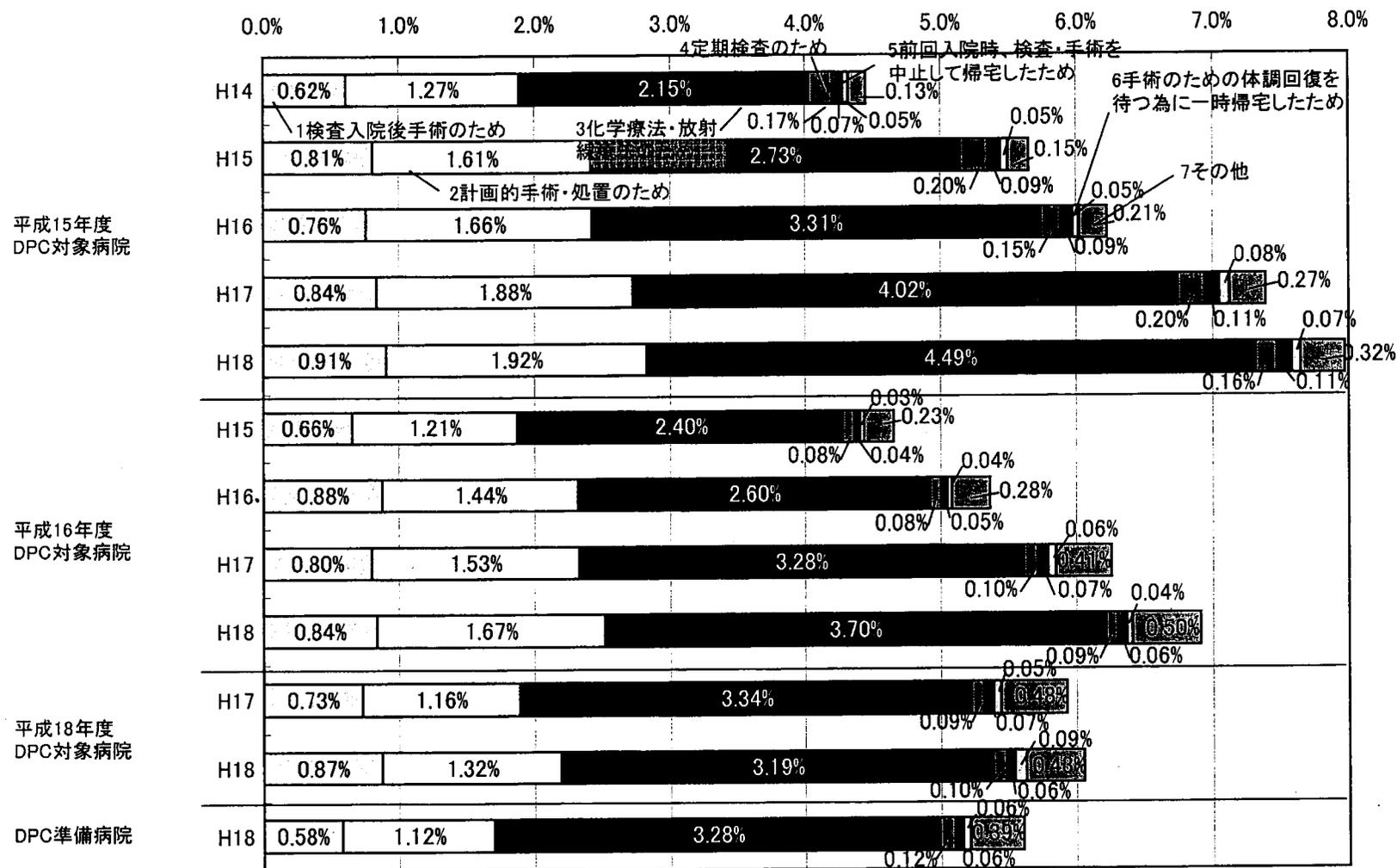
②前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率



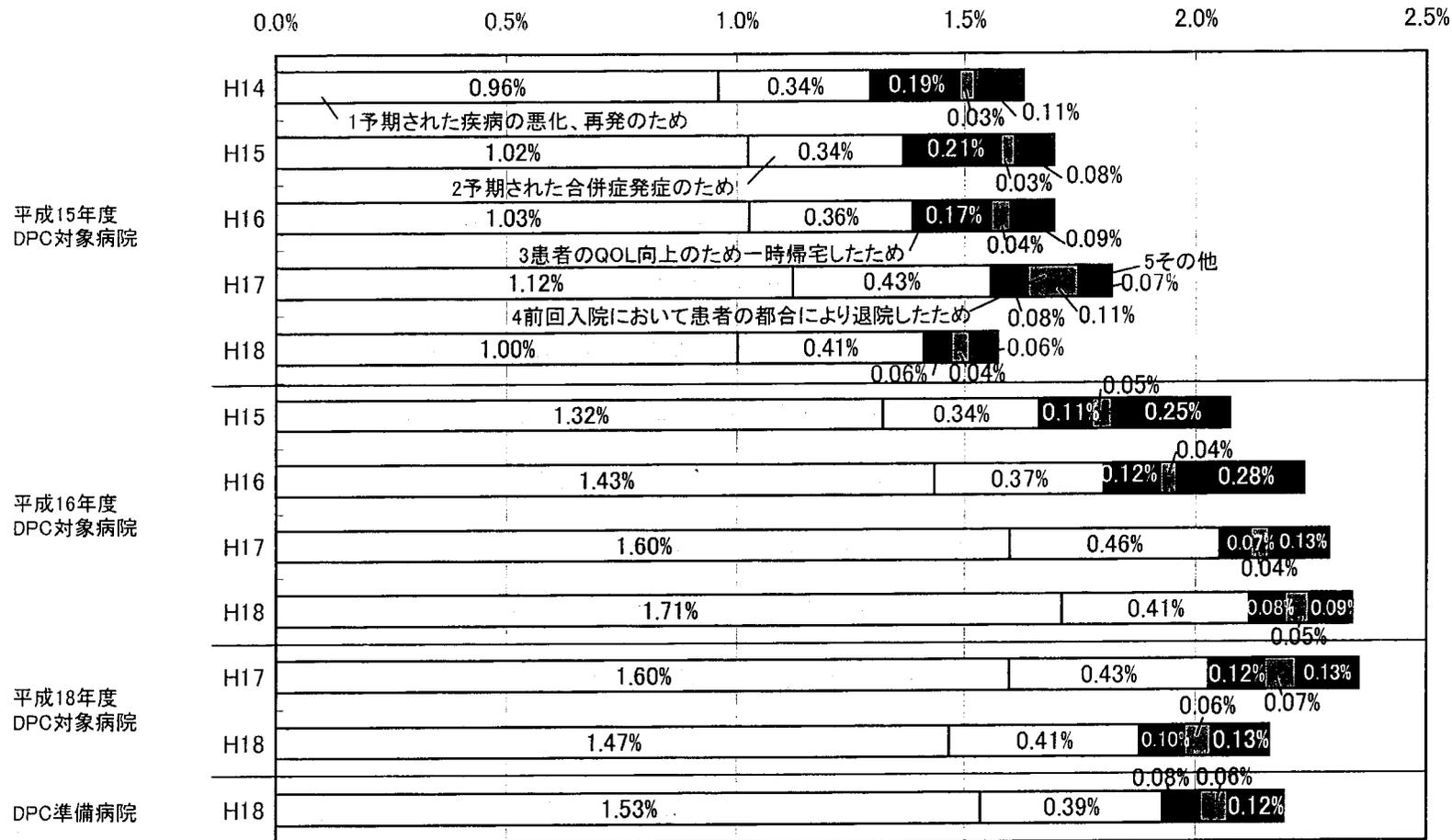
②前回入院と今回入院の病名同異別・再入院事由割合



③計画的再入院における理由の内訳(退院症例に対する再入院症例数比率)



④ 予期された再入院における理由の内訳(退院症例に対する再入院症例数比率)



⑤ 予期せぬ再入院における理由の内訳(退院症例に対する再入院症例数比率)

